

大学と地域のパートナーシップ

笹井宏益
(国立教育政策研究所)

生涯学習の思想(1)

《生涯学習思想の原型》

ポール・ラングランの生涯教育論(UNESCO/1965)

リカレント教育論(OECD/1973)

臨時教育審議会答申(1987-1989) など



「個人の豊かな人生」を創出するため

社会の変化への対応が必要

学習の継続性と多元性を保障する仕組みの構築

生涯学習の思想(2)

《生涯学習思想の特徴》

- ▶ 個人の成長発達を社会のあり方との関係の中でとらえる(関係性)
- ▶ 教育/学習を機能のレベルでとらえる(機能性)
- ▶ すべての教育/学習を包括する理念(理念性)

生涯学習の思想(3)

《生涯学習思想の改革性》

- ▶ 学校教育の限界を前提
- ▶ 教育システム全体の改革を志向
- ▶ 社会システムの改革を志向
- ▶ よりよい個人の生き方を志向

生涯学習思想によってクローズアップされた教育/学習機能(日本の場合)

学校教育機関の社会人受け入れ

学校教育機関の社会教育的機能

ボランティア活動の学習的機能

大学開放の歴史的展開

- ▶ 中世大学の原型としてのボローニャ大学
- ▶ ケンブリッジ大学から始まった大学開放
- ▶ アメリカにおける大学開放の展開

- ▶ 旧制専門学校における大学開放事業
- ▶ 大学令の意義と課題
- ▶ 近年における大学開放の潮流

大学開放の現代的意義

《大学側の視点に立った場合》

- ▶ 「教育」「研究」といった大学の**基本的機能**を改善する
- ▶ 従来からの蓄積の上に**社会**との間に新たな機能を開発する
- ▶ 従来からの蓄積の上に**地域**との間に新たな機能を開発する

大学開放の位置と現状

- ▶ 日本の場合、理念としての大学開放の意義が理解されていない
- ▶ 大学を取り巻く社会環境の改革が不十分
- ▶ 大学教員の意識やIntelligenceが古い
- ▶ 実践型の学問が学問体系として認識されていない
- ▶ 実務的・生活志向型のIntelligenceが学問体系の中に位置付いていない



開放事業は、Service & Sacrifice?!

連携協力の理論(1)

《連携協力の原理》

- ▶ パートナーシップに基づく関係性
- ▶ リゾーム型の組織原理・組織運営
- ▶ メリットの創出による接着機能
- ▶ 同質性と(Issueの共有)異質性(機能の相違)の共存
- ▶ コーディネーションの必要性

連携協力の理論(2)

《連携協力実現のための必要条件》

- ▶ Vision(方向性)の共有
- ▶ 即物的・実践的なIssueの共有

連携協力の理論(3)

《連携協力実現のための十分条件》

▶ 構成主体が連携協力による**成果(メリット)**を感じる**ことが重要**

* 直接的メリット＝自らにとってのメリット

* 間接的メリット＝第三者のメリットを自身のメリットとして受け取る

現代的課題の構造

現代社会が直面する課題(ex. 地球環境問題)は、一般的に次のような性格をもっている

- ①多面的・総合的なアプローチによる解決が求められる
- ②生活課題・学習課題という側面がある
- ③学術的な知見と生活レベルの知見の融合が求められる
- ④関連するセクターの連携協力が不可欠である

連携協力の必要性と今後の展望

- ▶ 連携協力を仕組みにしたものがコンソーシアム
- ▶ 積極的に現代的課題の解決に取り組む必要
- ▶ 大学・短大などがこれまで蓄積してきたものを基本に新しい機能の開発を図ることが必要
- ▶ コンソーシアムの活動にかかわるすべての主体がメリットを感じなければ活動は拡充しない
- ▶ 即物的で実践的なIssueを個々の活動の中に取り上げることが不可欠

大学コンソーシアムの現状(1)

《大学コンソーシアム京都》

1994年設立 公益財団法人 市内の大学・短大、京都市、経済団体、賛助会員企業により構成

(教育系－学生向け活動)

- * 単位互換制度/インターンシップ/高大連携/
映画祭などのイベント開催

(教育系－教職員向け活動)

- * FD、SDフォーラムなどの開催

(教育系－市民向け活動)

- * 生涯学習カレッジの運営

大学コンソーシアムの現状(2)

《大学コンソーシアムあきた》

2005年設立 14の大学・短大等により構成

(教育系－学生向け活動)

* 単位互換制度/高大連携授業/中大連携授業

(教育系－市民向け活動)

* カレッジプラザ/社会人講座/連携公開講座
サイエンスプラザ

大学コンソーシアムの現状(3)

《大学コンソーシアムやまなし》

2006年設立 NPO法人 11の大学・短大等により構成

(教育系－学生向け活動)

* 単位互換制度/高校生に対する情報提供

(教育系－教職員向け活動)

* 各種情報提供

(教育系－市民向け活動)

* 県民コミュニティーカレッジ

* やまなし若者地域活性化プロジェクト推進事業
～ワイワイ(YY)プロジェクト～

大学コンソーシアムの現状(4)

《大学コンソーシアムいしかわ》

2006年設立 一般社団法人 大学・短大、地方自治体、
関係団体等により構成

(教育系－学生向け活動)

* 単位互換制度/高大連携/学生と企業との対話/
CGコンテスト等のイベント

(教育系－市民向け活動)

* いしかわシティカレッジ/カレッジ授業のコンテンツ化

(研究系－自治体向け活動)

* 地域課題研究ゼミナール支援事業/地域貢献型学生プ
ロジェクト

大学コンソーシアムの現状(5)

《大学コンソーシアム大阪》

1999年設立 NPO法人 45の大学・短大等により構成

(教育系－学生向け活動)

* 単位互換制度/インターンシップ/
プロジェクト型インターンシップ/国際交流イベント

(教育系－教職員向け活動)

* SD研修など

(教育系－小学校教員向け活動)

* 大学・専修学校等オープン講座/理科指導力向上研修

(教育系－市民向け活動)

* 市民開放講座/大阪学講座

(研究系－企業向け活動) … * 産学連携

パートナーシップの国際的動向

- ▶ 地域産業の技術開発等に高等教育機関がかかわる事例
(2005年「地域社会に貢献する大学」(OECD編))
- ▶ 高等教育機関の運営に地域の人材をかかわらせる事例(同上)
- ▶ 大学4年次の学生に地域課題の抽出とその解決方法を考察させるCapstone Programを導入している事例(多くのアメリカの大学)
- ▶ サービス・ラーニングへの協力(同上)

コンソーシアム岐阜への示唆？

- ▶ 連携協力活動を多元化する
- ▶ 研究系のIssueを取り込む
- ▶ 教育系の連携協力事業を学校教育の体系の中で位置づける
- ▶ 地域から人材を得て地域に帰す、という人材育成のサイクルを確立する
- ▶ 実践的学問への対応を充実する
- ▶ コーディネーションを充実する